



さて、JSNの2023年度も2/3が過ぎました。昨年の事業計画の概要は下記の4項目でした。それ以外にも自費出版の各地図書館巡回展覧会が始まったことや、ジャグラ岡本会長から、日本自費出版文化賞の主催をJSNにしたらいかがという提案もありました。総会までに、そのような計画や課題も含め、やったこと（事業報告）とやろうとしていること（事業計画）を整理し報告と提案をいたしますので、ご意見をお願いいたします。（川井）

- 1) 会員のためと会員拡大のために、魅力ある自費出版アドバイザー講座を年3回実施し定着させる。
- 2) 会員拡大と文化賞宣伝のために、アドバイザー講座とアドバイザー試験制度、文化賞をジャグラ以外の全印工連などの他の関連団体に積極的に宣伝する。
- 3) 文化賞の存続のために、協賛会社を募り、合計協賛金を現状プラス30万円目標とする。
- 4) 日本の自費出版文化をリードし、広告収入も期待できる、JSNのWebサイトを日本一の自費出版オウンドメディア（この場合は、あらゆる自費出版情報を網羅発信しているHP）とするための計画を策定する。

\_\_\_\_\_

## 2. トピックス … 「北海道デジタル出版推進協会」の活動が10年 代表はJSN林下理事

\_\_\_\_\_

北海道内の出版社でつくる「北海道デジタル出版推進協会」（代表理事はJSN理事の林下英二さん）が、設立10年目を迎えました。電子化による全国の販路拡大を目指した活動ですが、地道に北海道発の文化や歴史を広めているとのこと。特にコロナ自粛期間は電子図書館が急速に普及したため、急激に売り上げが増えたと報道されています。  
（朝日新聞デジタル <https://www.asahi.com/articles/ASRDG4H8NRD6IPE00R.html>）

\_\_\_\_\_

## 3. お知らせ … 第42回自費出版アドバイザー講座開催します

\_\_\_\_\_

リアル+オンライン公開講座  
第42回自費出版アドバイザー講座  
「電子書籍の悩み これで解決！ーはじめての電子出版ー」

「紙の書籍を作るのとあわせて電子書籍も頼まれ、困ってしまった経験はありませんか。どこにどのように依頼？ どんなデータを作れば？ どのプラットフォームに配信する？ 販売はどうしたら？ などなど。そこで、電子書籍のパイオニアであるボイジャーさんに、現場の立場から分かりやすく解説していただきます。電子書籍の基礎から具体的な実務まで学べる講座です。」

当日は、「YouTubeライブ」で限定ライブ配信を予定しています。

会場に来られなくても質問はチャットで参加できます。

（Googleアカウントでログインする必要があります）

お申し込みいただいた方には、講座前日までに視聴先URLをメールでお知らせします。

また、2月25日（日）までアーカイブ動画を視聴できますので、お気軽にお申し込みください。

■講師：株式会社 ボイジャー 齊藤 圭史 氏

■日時：2024年2月16日（金）15時00分～16時40分

■場所：ジャグラ本部 8階会議室

東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル8階

■研修費：日本自費出版ネットワーク会員は 2,000円、  
ジャグラ会員・全印工連会員は 2,500円、その他一般の方は 3,000円

■申込み 問合せ

申込締切日：2024年2月9日（金）

お申し込みは、下記のGoogleフォーム、

または日本自費出版ネットワークのメール、FAX宛にお送りください。

申込みフォーム：<https://forms.gle/uF1ZNbyaeMMS7tsr8>

メール：[pp@japan.email.ne.jp](mailto:pp@japan.email.ne.jp)

※お申込み後、研修費のご請求書を郵送でお送りいたします。

NP0法人日本自費出版ネットワーク事務局  
電話 03-5623-5411 FAX 03-5623-5473  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル7F

氏名：  
会社名：  
メール：  
住所：  
電話：  
FAX：  
所属など：  
・日本自費出版ネットワーク会員  
・ジャグラー会員  
・全印工連会員  
・その他一般  
ご質問など：

\_\_\_\_\_

☆ 自費出版事情… ～会員便り～No.73

\_\_\_\_\_

「自分史の在り方」

株式会社北斗プリント社（北斗書房）  
相生 隆久

自費出版のお仕事に関わって20年余り、そのなかで、様々な自分史の制作に携わってきました。オーソドックスな自分史はもちろん、俳句やエッセイ、写真や絵画を通じて作者様の来し方を伺わせる作品にもたくさん出会いました。当初は単純に作品集を、と考える方でも、編集を進めるなかで自分史的な要素が増えることも度々ありました。ある作家さんの言葉に「物書きの作品には、多少にかかわらず作者の半生が反映されているものだ」というものがあります。自分史の制作を進めていくと、あたかもその方の半生を追体験しているような感じを覚えます。あらためて、自分史の在り方は十人十色、様々な在るのだなあと実感しています。これからも、自分史という世界でただ一つの作品にたくさん出会い、心動かされる作品に仕上げられるよう、想いをカタチにするお手伝いに日々精進してまいります。

\_\_\_\_\_

☆ 知っとこ高知 その 8

\_\_\_\_\_

「高知家」

「高知家」という言葉をご存じですか？「こうちけ」と読みます。10年前から高知県と高知県地産外商公社が行っている高知県振興キャンペーンの名称です。「高知県は、ひとつの大家族やき。」というキャッチフレーズで高知県全体を一つの家に見立て、高知と何らかの関わりがある県外の人も含めて家族のような温かいつながりを目指したものです。

以下、現高知県知事のメッセージです。

「暑苦しいほどに、あったかい。  
飲んだら誰とでも仲良くなる。  
ご近所さんも、初対面の人も、大事にする。  
高知県には、都会で失われかけている『人と人のつながり』が息づいています。  
まるで、高知県がひとつの大家族であるかのように。  
ぜひ高知県に遊びに来て、家族の温かさを感じてください。」

今も高知県庁の看板は添付画像のように「高知家」と書かれていて、たしかに高知の良さを表していると思います。  
おいしい食材やお酒、観光スポットや偉人を育んだ文化など、高知が誇るものはたくさんありますが、やっぱり一番は人。  
私自身も21年前に高知に移住し、当初は戸惑うことも多々ありましたが、今はおかげさまで温かくて正直な愛すべき人たちに囲まれ、水を得た魚のように？なっております……。

リーブル出版（株式会社リーブル）  
代表取締役 坂本 圭一郎

\*\*\*\*\*

★あとがき

2024年、自費出版ネットワークの活動が始まりました。  
年末年始、私はいつものように家族で賑やかに過ごし、新しい年を迎えました。  
当たり前のことが当たり前にできる日常に感謝です。  
年末にPerfect days という映画を観てきました。  
粛々と過ごす毎日の繰り返し。  
でもその大切さを改めて知りました。  
自費出版ネットワークも粛々と育てていきましょう。  
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

最後までお読みくださりありがとうございました。

---

お気づきの点、掲載情報、はたまた私への激励のお言葉がございましたら  
yumi@maruwanet.co.jp まで、お願いいたします。

\*\*\*\*\*

◆日本自費出版ネットワーク事務局  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル7階  
電話：03-5623-5411  
FAX：03-5623-5473  
<http://www.jsjapan.net/>

過去のメールマガジンはコチラからご覧になれます

↓  
<https://www.jsjapan.net/pages/mm>

\*\*\*\*\*